



# 福島中だより

2月号

H29.2.1発行  
文責：校長

1月の下旬はずいぶん冷え込みました。巷ではインフルエンザが猛威をふるい、先日は県内に流行警報も発令されました。そんな中、3年生は私立高校入試が始まりました。2月には県立高校の推薦入試や都城高専の一般入試も計画されており、いよいよ中学校も受験シーズンへ突入となりました。人生最初の試練ですが、保護者の方や先生方など、周りの大人たちは皆通ってきた道のりです。自分の力を信じて頑張ってください！1・2年生も、福島中最後の卒業生となる先輩を応援するとともに、1・2年後の自分の姿と重ねて、今すべきことをがんばりましょう。

## ●●○ あるレジ打ちの女性の話 ○●●

お話を一つ紹介します。私がこのお話（実話）に出会ったのは数年前ですが、とても心に残っている話です。いろんなところで紹介されているので、知っている人もいるかもしれませんが、是非、親子で読んで、語り合ってみてください。

### ■ あるレジ打ちの女性の話

その女性は、何をしても続かない人でした。田舎から東京の大学に来て、部活やサークルに入ったのは良いのですが、すぐにイヤになって次々と所属を変えていくような人だったのです。

そんな彼女にも、やがて就職の時期が来ました。最初、彼女はメーカー系の企業に就職します。ところが仕事が続きません。勤め始めて3ヶ月もしないうちに上司と衝突し、あっという間にやめてしまいました。次に選んだ就職先は物流の会社です。しかし入ってみて、自分が予想していた仕事とは違うという理由で、やはり半年ほどでやめてしまいました。その次に入った会社は、医療事務の仕事でした。しかしそれも、「やはりこの仕事じゃない」と言ってやめてしまいました。

そうしたことをくり返しているうち、いつしか彼女の履歴書には、入社と退社の経歴がズラっと並ぶようになっていました。すると、そういう内容の履歴書では、正社員に雇ってくれる会社がなくなってきました。ついに、彼女はどこへ行っても正社員として採用してもらえなくなりました。だからといって、生活のためには働かないわけにはいきません。田舎の両親は早く帰って来いと言ってくれます。しかし、負け犬のようで帰りたくありません。

結局、彼女は派遣会社に登録しました。

ところが、派遣も勤まりません。すぐに派遣先の社員とトラブルを起こし、イヤなことがあればその仕事をやめてしまうのです。彼女の履歴書には、やめた派遣先のリストが長々と追加されていきました。

ある日のことです。例によって「自分には合わない」などと言って派遣先をやめてしまった彼女に、新しい仕事先の紹介が届きました。スーパーでレジを打つ仕事でした。当時のレジスターは、今のよう読み取りセンサーに商品をかざせば値段が入力できるレジスターではありません。値段をいちいちキーボードに打ち込まなくてはならず、多少はタイピングの訓練を必要とする仕事でした。ところが勤めて1週間もするうち、彼女はレジ打ちにあきてきました。ある程度仕事に慣れてきて、「私はこんな単純作業のためにいるのではない」と考え始めたのです。とはいえ、今までさんざん転職をくり返し、我慢の続かない自分が、彼女自身も嫌いになっていました。もっとがんばらなければ、もっと耐えなければダメということは本人にもわかっていたのです。しかし、どうがんばってもなぜか続かないのです。

この時、彼女はとりあえず辞表だけ作って見たものの、決心をつけかねていました。するとそこへ、お母さんから電話がかかってきました。

「帰っておいでよ」受話器の向こうからお母さんのやさしい声が聞こえてきました。これで迷いが吹っ切れました。彼女はアパートを引き払ったらその足で辞表を出し、田舎に戻るつもりで部屋を片付け始めたのです。長い東京生活で、荷物の量はかなりのものです。あれこれダンボールに詰めていると、机の引き出しの奥から1冊のノートが出てきました。

小さい頃に書きつづった大切な日記でした。なくなって探していたものでした。パラパラとめくっているうち、彼女は、「私はピアニストになりたい」と書かれているページを発見したのです。そう、彼女の小学校時代の夢です。

「そうだ。あの頃、私はピアニストになりたいくて、練習をがんばっていたんだ…」彼女は思い出しました。なぜかピアノの稽古だけは長く続いていたのです。しかし、いつの間にかピアニストになる夢はあきらめていました。彼女は心から夢を追いかけていた自分を思い出し、日記を見つめたまま、本当に情けなくなりました。

「あんなに希望に燃えていた自分が今はどうだろうか。履歴書にはやめてきた会社がいくつも並ぶだけ。自分が悪いのはわかっているけど、なんて情けないんだろう。そして私は、また今の仕事から逃げようとしている…」

そして彼女は日記を閉じ、泣きながらお母さんにこう電話したのです。

「お母さん、私、もう少しここでがんばる」

彼女は用意していた辞表を破り、翌日もあの単調なレジ打ちの仕事をするために、スーパーへ出勤していきました。ところが「2、3日でもいいから」とがんばっていた彼女に、ふとある考えが浮かびます。

「私は昔、ピアノの練習中に何度も何度も弾き間違えたけど、くり返し弾いているうちに、どのキーがどこにあるのかを指が覚えていた。そうなったら鍵盤を見ずに、楽譜を見るだけで弾けるようになった」

彼女は昔を思い出し、心に決めたのです。「そうだ、私は私流にレジ打ちを極めてみよう」と。

レジは商品ごとに打つボタンがたくさんあります。彼女はまずそれらの配置をすべて頭に叩き込むことにしました。覚え込んだら、後は打つ練習です。彼女はピアノを弾くような気持ちでレジを打ち始めました。そして数日のうちに、ものすごいスピードでレジが打てるようになったのです。すると不思議なことに、それまでレジのボタンだけ見ていた彼女が、今まで見もしなかったところへ目がいくようになります。最初に目に映ったのはお客さんの様子でした。「ああ、あのお客さん、昨日も来ていた」「ちょうどこの時間になったら子ども連れで来るんだ」とか、いろいろなことが見えるようになったのです。それは彼女のひそかな楽しみにもなりました。相変わらず指はピアニストのように、ボタンの上を飛び交います。そして、いろいろなお客さんを見ているうちに、今度はお客さんの行動パターンやクセに気づいていくのです。「この人は安売りのものを中心に買う」とか、「この人はいつも店が閉まる間際に来る」とか、「この人は高いものしか買わない」とかがわかるのです。

そんなある日、いつも期限切れ間近の安いものばかり買うおばあちゃんが、5,000円もする尾頭付きの立派なタイをカゴに入れてレジへ持ってきたのです。彼女はビックリして、思わずおばあちゃんに話しかけました。

「今日は何かいいことがあったんですか？」

おばあちゃんは彼女に、にっこりと顔を向けて言いました。

「孫がね、水泳の賞を取ったんだよ。今日はそのお祝いなんだよ。

いいだろう、このタイ」と話すのです。

「いいですね。おめでとうございます」

うれしくなった彼女の口から、自然に祝福の言葉が飛び出しました。

お客さんとコミュニケーションをとることが楽しくなったのは、これがきっかけでした。いつしか彼女は、レジに来るお客さんの顔をすっかり覚えてしまい、名前まで一致するようになりました。

「○○さん、今日はこのチョコレートですか。でも今日はあちらにもっと安いチョコレートがでてますよ」「今日はマグロよりカツオのほうがいいわよ」などと言ってあげるようになったのです。

レジに並んでいたお客さんも応えます。

「いいこと言ってくれたわ。今から換えてくるわ」そう言ってコミュニケーションをとり始めたのです。彼女はだんだんこの仕事が楽しくなってきました。

そんなある日のことです。「今日はすごく忙しい」と思いながら、彼女はいつものようにお客さんとの会話を楽しみつつレジを打っていました。すると店内放送が響きました。

「本日は混みあいまして大変申し訳ございません。どうぞ空いてるレジにお回りください」

ところがわずかな間をおいて、また放送が入ります。

「本日は混みあいまして大変申し訳ありません。重ねて申し上げますが、どうぞ空いているレジのほうへお回りください」

そして3回目、同じ放送が聞こえてきた時に、はじめて彼女はおかしいと気づき、周りを見渡して驚きました。

どうしたことか5つのレジが全部空いているのに、お客さんは自分のレジにしか並んでいなかったのです。店長があわてて駆け寄ってきます。そしてお客さんに「どうぞ空いているあちらのレジへお回りください」と言ったその時です。お客さんは店長の手を振りほどいてこう言いました。

「放っというてちょうだい。私はここへ買い物に来てるんじゃない。あの人としゃべりに来てるんだ。だからこのレジじゃないとイヤなんだ」

その瞬間、彼女はワッと泣き崩れました。

その姿を見て、別のお客さんが店長に言いました。

「そうそう。私たちはこの人と話をするのが楽しみで来てるんだよ。今日の特売はほかのスーパーでもやってるよ。だけど私は、このおねえさんと話をするためにここへ来てるんだ。だからこのレジに並ばせておくれよ」

彼女はポロポロと泣き崩れたままレジを打つことが出来ませんでした。仕事というのはこれほど素晴らしいものなのだと、初めて気づいたのです。

そうです。すでに彼女は昔の自分ではなくなっていたのです。

\*\*\*\*\*

それから、彼女はレジの主任になって、新人教育に携わったそうです。彼女から教えられたスタッフは、仕事の素晴らしさを感じながら、今日もお客さんと楽しく会話していることでしょう。

~~~~~ 『涙の数だけ大きくなれる』 ～木下晴弘著書、フォレスト出版～ より

1年生は2月3日に職場見学を行います。それを踏まえて、2年生で実際に職場体験を行います。

中学時代は、大人に近づく過程で、教科の勉強と同時に「働くとはどういうことか」についても少しずつ学んでいくことになります。「キャリア教育」と教育現場ではよんでいます。

また、キャリア教育は、単に職業についてだけでなく、人としての成長を支える教育でもあります。この話の中にも、目の前のことに一生懸命取り組むことの尊さや、根気や工夫、コミュニケーションの大切さなど、よりよい自分になるためのヒントがたくさん含まれているような気がします。

これからの人生、いろいろなことがあるでしょう。壁にぶち当たったとき、それを乗り越えて、よりよい人生を送ることができる手掛りとなれば幸いです。

## 2月の主な行事

- |             |                 |
|-------------|-----------------|
| 3日(金)       | 職場見学(1年)        |
| 6日(月)       | リフレッシュデー(部活動休止) |
| 8日(水)       | 県立高校推薦入試        |
| 11日(土)      | ●建国記念の日         |
| 13日(月)      | 振替休業日(2/18分)    |
| 16日(木)      | 第4回参観日・立志式(2年)  |
| 17日(金)      | 市内6中学校合同閉校式     |
| 18日(土)      | 福島中学校閉校式/閉校を偲ぶ会 |
| 19日(日)      | 都城高専一般入試        |
| 20日(月)      | リフレッシュデー(部活動休止) |
| 23・24日(木・金) | 学年末テスト          |